

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【大谷大学】

本学は、点検・評価項目のもとに独自の評価の視点を定め、点検・評価を行った。その評価の視点を小見出しにして本章(1)の評価項目(1)(2)を記述する。

1、現状の説明

(1)教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。

【大学全体】

(教育目標の明示)

第1章で述べた建学の理念・目的のもとに教育目標（人物育成上の目的）を定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-1『大谷大学要覧 2014.4-2015.3』pp.2-3、資料 4(1)-2『履修要項 2014』p.16、p.372、p.374、資料 4(1)-3 本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」）。具体的には【文学部】【文学研究科】の項にそれぞれ記載する。

(教育目標に基づいた学位授与方針の明示)

学位授与方針は、文学部および文学研究科それぞれの教育目標（人物育成上の目的）に基づいて定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-1 pp.2-3、資料 4(1)-2 p.16、p.372、p.374、資料 4(1)-3）。具体的には【文学部】【文学研究科】の項に記載する。

なお、本学は、理念・使命に基づく、2012年度から2021年度までの10年間のビジョン・目的および行動計画「グランドデザイン」の中に「教育に関する方針」を定めて公表している（資料 4(1)-4「グランドデザイン【2012年度—2021年度】」）。このグランドデザインに基づいて、従来の文学部におけるディプロマ・ポリシー（DP）、カリキュラム・ポリシー（CP）、アドミッション・ポリシー（AP）を見直すため、2012年に「3つのポリシー再検討会」を発足させて大幅な見直し作業に着手し、その結果を2013年6月大学運営会議で議決のうえ教授会で報告した（資料 4(1)-5「3つのポリシー再検討会 議題」）。同様に、文学研究科においても、「大学院グランドデザイン推進会議」を発足させた（資料 4(1)-6「大学院グランドデザイン推進会議案内」）。3ポリシーとカリキュラム編成の再検討を行って2013年11月大学運営会議で議決のうえ大学院委員会で報告した。これらのポリシーはいずれも部課長会を通じて事務職員にも報告している。なお、3つのポリシー再検討会および大学院グランドデザイン推進会議は、学監・副学長のもとに臨時的に設置した組織であり、規程化を行っていない。

【文学部】

(学士課程における教育目標の明示)

文学部の教育目標は、下記のとおり定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」の「教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針（文学部）」の中に明示している（資料 4(1)-1 p.2、資料 4(1)-2 p.16、資料 4(1)-3）。

【教育目標（人物育成上の目的）】

文学部は、建学の理念にもとづいて、多様な価値観によって構成される現代社会において主体的に生き、また、人間・人間社会・人間社会をとりまく自然環境に関する人文諸科

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【大谷大学】

学の知識・知見によって、広く社会や文化の発展に貢献することのできる人物を育成する。

(教育目標に基づいた学位授与方針の明示)

文学部の学位授与方針は、教育目標に基づいて下記のとおり定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している(資料 4(1)-1 p.2、資料 4(1)-2 p.16、資料 4(1)-3)。

【学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー DP)】

文学部は、卒業時に学生が身につけるべき下記の6つの能力(教育研究上の目的)を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学し、所定単位の修得をもって教育目標を達成したものとみなし、学士の学位を授与する。

卒業時に身につけておくべき能力(教育研究上の目的)

- DP1 外国語を使用して、基礎レベルでの読解、会話、表現ができる。〔技能・表現〕
- DP2 日本語を使用して、正確に読解し、論理的に表現し、的確に議論することができる。〔技能・表現〕
- DP3 人間・社会・自然環境について、幅広い知識・知見を身につけている。〔知識・理解〕
- DP4 人間・社会・自然環境に関して問題を見だし、課題を設定しようとする意欲をもつ。〔関心・意欲〕
- DP5 人文諸科学の幅広い知識を用いて、人間・社会・自然環境の諸相を分析することができる。〔思考・判断〕
- DP6 自己と他者への理解を深めながら、主体的にさまざまな問題解決に取り組むことができる。〔態度〕

なお、文学部は、学科ごとの人物育成の目的(教育目標)を「大谷大学学則」に定めて『履修要項』に記載し、各学科の特性を明確に表明している(資料 4(1)-2 p.18)。

【文学研究科】

(修士課程における教育目標の明示)

修士課程における教育目標は、下記のとおり定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している(資料 4(1)-1 p.3、資料 4(1)-2 p.372、資料 4(1)-3)。

【教育目標 (人物養成上の目的)】

修士課程は、専攻学問分野の高度な専門知識と研究能力、その学修過程で身につけた視野や能力をもって、現代社会を主体的に生き、社会や文化の発展に貢献することのできる人物を養成する。

具体的には以下のような人物の養成である。

1. 高度な専門的知識と研究能力を備えた創造性豊かな研究者を目指す人物の養成
2. 高度な専門的知識・能力を持つ職業人の養成

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【大谷大学】

3. 知識基盤社会を協調的に支えながら、人と人との関係を再創造していこうとする高度で知的な教養人の養成

(修士課程における教育目標に基づいた学位授与方針の明示)

修士課程における学位授与方針は、教育目標に基づいて、下記のとおり定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-1 p.3、資料 4(1)-2 p. 372、資料 4(1)-3）。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー DP）】

大学院文学研究科では、修士課程修了時に学生が身につけるべき下記の4つの能力（教育研究上の目的）を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学して所定単位を修得し、修士論文の審査及び最終試験に合格することをもって、教育目標を達成したものとみなし、修士の学位を授与する。

以下の能力を身につけた人に学位を授与する（教育研究上の目的）

- DP1 専攻学問分野と関連分野に関する、高度な専門知識を有する。〔専門知識〕
DP2 専攻学問分野のなかから自らの学問的問題を発見し、計画的、継続的、系統的に探究できる。〔問題発見力・探究力〕
DP3 専攻学問分野の基本文献と関連文献を正確に読み、理解することができる。自らの考えを論理的で説得力のある表現で展開できる。〔読解力・表現力〕
DP4 人間や社会の諸問題に関心をもち、他の人々と共に考え、自らの視野を広げる意欲をもって、学際的な交流をおこなうことができる。〔学際的視野〕

(博士後期課程における教育目標の明示)

博士後期課程における教育目標は、下記のとおり定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-1 p.3、資料 4(1)-2 p.374、資料 4(1)-3）。

【教育目標（人物養成上の目的）】

博士後期課程は、専攻学問分野の優れて高度な専門知識と研究能力を有し、人間や社会への広い視野をも備えて、自立した研究活動をおこない、社会や文化の発展に貢献することのできる人物を養成する。

(博士後期課程における教育目標に基づいた学位授与方針の明示)

博士後期課程における学位授与方針は、教育目標に基づいて、下記のとおり定め、『大谷大学要覧』、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-1 p.3、資料 4(1)-2 p. 374、資料 4(1)-3）。

【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー DP）】

大学院文学研究科では、博士後期課程修了時に学生が身につけるべき下記の4つの能力（教育研究上の目的）を定め、これらの能力を身につけることを到達目標とするカリキュラムを編成する。本学は、所定の期間在学して所定単位を修得し、博士論文の審査及び最

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

【大谷大学】

終試験に合格することをもって、教育目標を達成したものとみなし、博士の学位を授与する。

以下の能力を身につけた人に学位を授与する（教育研究上の目的）

DP1 専攻学問分野と関連分野に関する、優れて高度な専門知識を有する。〔専門知識〕

DP2 専攻学問分野の重要な学問的問題を見いだし、自らの確かな方法をもって探究することができる。〔問題発見力・探究力〕

DP3 研究に必要な複数の言語について高度な読解力を有する。研究成果を広く学界に発表することができる。〔読解力・表現力〕

DP4 人間や社会の諸問題について広い視野と学際的知識を有する。〔学際的視野〕

なお、文学研究科では、各専攻の教育目標を定め、各専攻の特性を明確に表明している（資料 4(1)-2 pp.376-388）。

(2)教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。

【大学全体】

本学では、教育目標および学位授与方針に基づいて、文学部および文学研究科それぞれ次のとおり教育課程の編成・実施方針を定めている。なお、教育課程の編成・実施方針は、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-2 p.17、pp.373-374、資料 4(1)-3）。

【文学部】

（文学部における教育課程の編成・実施方針の明示）

文学部における教育課程の編成・実施方針は、教育目標および学位授与方針に基づいて、下記のとおり定め、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-2 p.17、資料 4(1)-3）。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）】

文学部では、「学位授与方針」に定められた 6 つの能力を身につけるために、以下の図表に示された教育課程をもうけ、各科目群のねらいに応じて重点箇所を◎及び○で示す。（◎：特に重点を置いている、○：重点を置いている）

教育課程は、各授業科目を必修科目、選択科目および自由科目に分け、これを各年次に配当し、講義、演習等適切な方法により実施する。（自由科目は、現代総合科目および自己選択科目をいう。）

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針
【大谷大学】

科目群		履修 単位	学年 配当	(DP1)	(DP2)	(DP3)	(DP4)	(DP5)	(DP6)	各科目群のねらい
共通基礎科目	人間学Ⅰ	4	1			○	○		◎	仏教思想を通じて、「人間」に関する考察を進め、他者と共に生きる社会への問題意識を養う。
	人間学Ⅱ	4	2～4			○	○		◎	さまざまな学問分野が示す多様な人間観にふれるなかで、自己を見つめ直し、現代の諸問題への関心を喚起する。
	学びの発見	2	1		◎		◎		○	これまでの「学習」から大学の主体的な「学修」への転換とともに、専門的な「学修」への接続を図る。
	第1外国語	4	1	◎						国際的な言語である英語について、これまでの知識を再確認し、いっそうの学力向上を図る。
	第2外国語	4	1	◎						ドイツ語、フランス語、中国語、韓国・朝鮮語といった他国語を学び、文化の多様性にふれる。
学科専門科目	専門の技法	2	1		◎		○			各自の専門における基礎的方法を学ぶ。研究対象を客観的に分析・考察し、自らの見解を表現する力を養う。
	演習Ⅰ～Ⅳ	-	1～4		◎		○	◎	◎	4年間にわたる段階的な学びにより、専門における読解、思考、表現の方法を修得し、卒業論文作成に必要な探究能力を培う。
	概論	-	1～4			◎		○		専門とする学問を概観するとともに、個別の課題をその学問全体の中に位置づけ、専門に関する体系的理解を図る。
	講義	-	1～4			◎		○		専門とする学問の講義を通じて、基本的もしくは個別的課題に関する知識を身につけ、専門における考察能力を高める。
	実践研究	-	1～4		○		◎		◎	専門に関する文献や技術とじかに接することにより、専門における問題を自らの課題として捉え、考察する訓練を行う。
	卒業論文	8	4	○	◎	○	◎	◎	○	大学の学びを通じて身につけた能力を総合的に駆使し、粘り強く研究を遂行する。
現代総合科目	コミュニケーション系	4	1～4	◎						語学力を高めるとともに、多様な文化への理解や国際的なコミュニケーション能力を養う。
	キャリア形成系	4	1～4			○	◎	○		社会的に貢献するための幅広い知見を身につける。
	自然生命系	4	1～4			◎		○		自らを取り巻く自然環境を知り、命やこころへの理解を深める。
	歴史文化系	4	1～4			◎		○		世界の歴史と文化を多角的に理解する。
自己選択科目	24	1～4	-	-	-	-	-	-	各自の興味や関心に応じて自由に科目を選択し、教養をさらに広げる。	

(文学部における学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の整合性)

文学部における教育課程の編成・実施方針は、学位授与方針に基づいて定めていることから、上記図表に示したとおり、両者が整合的に連関していることが明らかである。なお、学位授与要件(卒業要件)は、「大谷大学学位規程」第5条に、「学士の学位は、本学学位の定めるところにより、本学学部を卒業した者に授与する。」と定め(資料4(1)-2 p.422)、「大谷大学学則」第19条では、卒業に必要な単位数が124単位であり、うち共通基礎科目が18単位、学科専門科目が66単位、現代総合科目が16単位、自己選択科目が24単位となっている。ただし、社会学科社会福祉学コースおよび教育・心理学科は、現代総合科目を置かず学科専門科目を82単位としている。また、全ての学科で卒業論文の提出を必須としている(資料4(1)-7『学生生活サポートブック2014』p.84)。授与する学位名称は、「大谷大学学位規程」第6条のとおり、「学士(文学)」および「学士(教育学)」である(資料4(1)-2 p.422)。更に本学では、学科ごとの教育課程の編成・実施方針を定めて各学科の特性を明確にするとともに学科主任会議で公表した(資料4(1)-8「大谷大学学士課程の教育方針」)。

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

【大谷大学】

【文学研究科】

(修士課程における教育課程の編成・実施方針の明示)

修士課程における教育課程の編成・実施方針は、教育目標および学位授与方針に基づいて、下記のとおり定め、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-2 p.373、資料 4(1)-3）。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー CP）】

大学院文学研究科修士課程では、学位授与の方針に定められた 4 つの能力が学生の身につくよう、授業科目を開設するとともに修士論文の作成等に対する研究指導計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。開講科目のねらい、授業形態、教育方法は次のとおりとする。

CP1 専攻学問分野の研究を始めるのに必要な専門知識と読解力の基礎を固めるべく、必修の基礎科目「基礎研究（文献研究）」を開講する。さらに、専攻学問分野の研究に必要な専門知識（DP1）、問題発見力・探究力（DP2）、読解力・表現力（DP3）を総合的に高め、修士論文に結実させるべく、必修の主要科目「特殊研究Ⅲ（演習）」を開講する。

CP2 人間や社会の諸問題への視野（DP4）を広げるべく、必修の基礎科目「仏教の思想」を開講する。

CP3 学生の多様な関心に応え、また、各専攻の特定学問分野の探究に必要な能力を高めるべく、関連科目を開講する。また、各専攻主要科目中の「特殊研究Ⅰ（講義）」、「特殊研究Ⅱ（文献研究）」の履修単位を関連科目のそれとして認定する。「特殊研究Ⅰ（講義）」のなかに高度な専門知識（DP1）を深めるものと他専攻生の学際的視野（DP4）を涵養するものを開講する。

「特殊研究Ⅱ（文献研究）」は読解力・表現力（DP3）を高め、専門知識（DP1）を深めるものを中心になるが、問題発見力・探究力（DP2）や学際的視野（DP4）を涵養するものも開講する。

「外国文化文献研究（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）」はとくに読解力・表現力（DP3）を高めるべく開講する。

そのほか、学外での幅広い交流の中で、専門知識（DP1）を深め、学際的視野（DP4）を広げることができるよう、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目を、関連科目の単位として認定する。

※ 教育・心理学専攻においては、CP1 と CP3 を次のとおりとする。

CP1 専攻学問分野の研究を始めるのに必要な専門知識と読解力の基礎を固めるべく、必修の基礎科目「教育学総論」「心理学総論」を開講する。さらに、専攻学問分野の研究に必要な専門知識（DP1）、問題発見力・探究力（DP2）、読解力・表現力（DP3）を総合的に高めるため、必修の主要科目「教育・心理学特別研究Ⅰ・Ⅱ」を開講する。

CP3 学生の多様な関心に応えるべく、関連科目を開講する。高度な専門知識（DP1）、問題発見力・探究力（DP2）、読解力・表現力（DP3）、学際的視野（DP4）を総合的に高めるため、選択の主要科目として教育学領域・心理学領域・教科教育学領域に

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【大谷大学】

それぞれ三種類の「特論」「演習」を開講し、その履修単位を関連科目のそれとして認定する。

「外国文化文献研究（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）」はとくに読解力・表現力（DP3）を高めるべく開講する。

そのほか、学外での幅広い交流の中で、専門知識（DP1）を深め、学際的視野（DP4）を広げることができるよう、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目を、関連科目の単位として認定する。

（博士後期課程における教育課程の編成・実施方針の明示）

博士後期課程における教育課程の編成・実施方針は、教育目標および学位授与方針に基づいて、下記のとおり定め、『履修要項』および本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」に明示している（資料 4(1)-2 p.374、資料 4(1)-3）。

【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー CP）】

大学院文学研究科博士後期課程では、学位授与の方針に定められた4つの能力が学生の身につくよう、授業科目を開講するとともに博士論文の作成等に対する研究指導計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。開講科目のねらい、授業形態、教育方法は次のとおりとする。

CP1 専門知識（DP1）、問題発見力・探究力（DP2）、読解力・表現力（DP3）を総合的に高め、博士論文に結実させるべく、必修の主要科目「特殊研究Ⅲ（演習）」を開講する。

CP2 人間や社会の諸問題についての視野（DP4）を広げるべく、必修の基礎科目「仏教の思想」を開講する。

CP3 各自の関心と必要に応じて、専門知識（DP1）、問題発見力・探究力（DP2）、読解力・表現力（DP3）を高め、学際的視野（DP4）を広げるべく、関連科目を開講する。また、各専攻主要科目中の「特殊研究Ⅰ（講義）」、「特殊研究Ⅱ（文献研究）」の履修単位を関連科目のそれとして認定する。

「特殊研究Ⅰ（講義）」のなかに高度な専門知識（DP1）を深めるものと他専攻生の学際的視野（DP4）を涵養するものを開講する。

「特殊研究Ⅱ（文献研究）」は読解力・表現力（DP3）を高め、専門知識（DP1）を深めるものが中心になるが、問題発見力・探究力（DP2）や学際的視野（DP4）を涵養するものも開講する。

「外国文化文献研究（英語・ドイツ語・フランス語・中国語）」はとくに読解力・表現力（DP3）を高めるべく開講する。そのほか、学外での幅広い交流の中で、専門知識（DP1）を深め、学際的視野（DP4）を広げることができるよう、京都・宗教系大学院連合単位互換制度下で開講される他大学院の科目を、関連科目の単位として認定する。

（文学研究科における学位授与方針と教育課程の編成・実施方針の整合性）

文学研究科における教育課程の編成・実施方針は、学位授与方針に基づいて定めている

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

【大谷大学】

ことから、両者が連関していることが明らかである。学位授与要件（修了要件）は、「大谷大学学位規程」第4条「修士の学位は、広い視野に立って精深な学識をそなえ、かつ、その専攻分野における研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を有する者に授与するものであり、本学大学院学則の定めるところにより、本学大学院修士課程を修了した者に授与する。」、同第3条「博士の学位は、その専攻分野について研究者として独創的研究活動を行うに必要な高度で精深な研究能力とその基礎となる幅広い豊かな学識を有する者に授与するものであり、本学大学院学則第22条第2項の定めるところにより、本学大学院博士後期課程を修了した者に授与する。」、同条第2項「博士の学位は、本学大学院学則第22条第3項により、前項に規定するもののほか、本学に博士の学位論文（以下「博士論文」という。）を提出してその審査に合格し、かつ、専攻分野に関し本学大学院の博士後期課程を修了したものと同等以上の学力を有することが、試問によって確認された者にも授与することができる。」と定め、「大谷大学学位規程」第2章「博士及び修士の学位」において、学位申請の詳細な手続を定め、『履修要項』に明示している（資料4(1)-2 p.422、p.392、p.402）。

修士課程の修了単位は34単位（ただし教育・心理学専攻は32単位）、うち基礎科目6単位、主要科目8単位、関連科目20単位（ただし教育・心理学専攻は18単位）であり、かつ修士論文の提出が必要である。博士課程の修了単位は18単位、うち基礎科目2単位、主要科目12単位、関連科目4単位であり、かつ2カ国語以上の外国語に通じ、3点以上の学術論文公刊、博士論文の提出が必要である。修了単位および修士論文・博士論文評価基準は、『履修要項』に明記している（資料4(1)-2 p.390、p.393）。また、授与する学位名称は、「大谷大学学位規程」第6条のとおり、「博士（文学）」、「修士（文学）」および「修士（教育学）」である（資料4(1)-2 p.422）。

更に本学大学院では、各専攻の教育目標と教育課程の編成・実施方針を定め、各専攻の特性を明確にしている（資料4(1)-2 pp.376-388）。

(3)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が大学構成員（教職員および学生等）に周知され、社会に公表されているか。

【大学全体】

本学の情報共有方法は主に次の2種に大別できる。すなわち、①会議（教授会や各種委員会）における資料および審議・議決と、②情報公開のために作成する各種公表媒体（印刷冊子、本学HP）である。①②により学内周知を行い、また②は学外への情報公表の手段となっている。

【文学部】

教職員に対する情報共有の学内手続は、まず教授会において報告し、その内容が教授会後に開催する事務職員の部課長会議にて報告のうえ、各部・課において全職員に連絡することとなっている。教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『履修要項』に明示しており、同内容は本学HP「教育研究を始めとする各種方針」において常に閲覧可能である。教育目標と学位授与方針は『大谷大学要覧』にも明示している（資料4(1)-2 pp.16-17、資料4(1)-3、資料4(1)-1 p.2）。

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針

【大谷大学】

また、毎年度初めのオリエンテーション期間には、学科・コース単位でのガイダンスを各学年別に設けており、学生に配付した『履修要項』を用いて、特に新入学生（第1学年、第3学年編入）については、大学4年間（編入2年間）の全体像を踏まえた教育課程の編成・実施方針にかかる説明を行っている。

社会への公表は、主に本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」によっている。また、対外的な大学概要の周知を目的とした『大谷大学要覧』に教育目標と学位授与方針を記載して公表している。『大谷大学要覧』は、大学説明会やオープンキャンパスへの参加者、資格取得にかかる学生の実習先、求人企業、また全国の同窓会各支部に配布している（資料 4(1)-3、資料 4(1)-1）。

【文学研究科】

教職員に対する情報共有の学内手続は、まず大学院委員会において報告し、その内容が委員会後に開催される事務職員の部課長会議にて報告のうえ、各部・課において全職員に連絡することとなっている。教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針は、『履修要項』によって明示しており、同内容は本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」において常に閲覧可能である。教育目標と学位授与方針は『大谷大学要覧』にも明示している（資料 4(1)-2 pp.372-374、資料 4(1)-3、資料 4(1)-1 p.3）。

また、毎年度初めのオリエンテーション期間には、専攻・ゼミ単位でのガイダンスを設けており、特に新入学生（修士課程・博士後期課程第1学年）については、大学院2年間又は3年間の全体像を踏まえた教育課程の編成・実施方針にかかる説明を行っている。

社会への公表は、主に本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」によっている。また、『大谷大学要覧』には教育目標と学位授与方針を記載して公表している（資料 4(1)-3、資料 4(1)-1 p.3）。

(4)教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。

【大学全体】

文学部の検証に関しては、従来、教務委員会がその任を負ってきた。教務委員会は文学部長の補佐機関として設置し、その目的は本学の基本理念によるカリキュラムの大綱、並びにそれに基づく運用計画の策定、および FD（ファカルティディベロップメント）活動を推進し、大学教育の充実と発展を図ることにある。教務委員会の下部組織として教務部会と FD 部会を置き、そのうちカリキュラムに関する事項を教務部会が、また教育内容・方法の改善に関する事項を FD 部会が、それぞれ審議・推進してきた。2013 年度からは、文学部の教育活動について継続的に検証および提言を行う「教育推進室」を設置し、毎年検証を行うこととしている（資料 4(1)-9「教育推進室規程」）。

文学研究科については、大学院委員会のもとに設置している「大学院運営委員会」において検証を行っている。

【文学部】

教育・学生支援担当副学長を室長とする教育推進室では、次の業務を行うことを「教育

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【大谷大学】

推進室規程」第3条第1号および第2号に規定している（資料4(1)-9）。

(1)学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の検証及び改善案の策定

(2)教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）の検証及び改善案の策定

検証・改善の手続は次のとおりである。すなわち、検証作業として、教務委員会教務部会と必要に応じて各学科の意見を聴取する。あわせて「学生による授業評価アンケート」、「学生満足度調査アンケート」、GPA等のデータ分析によって検証を行う。検証の結果、方針を改正する場合は原案を教育推進室が作成し、①大学運営会議に報告したうえで、②学科主任会議③協議員会で意見を聴取し、教育推進室で原案の修正を行い、④大学運営会議で決定することとなる。決定事項は⑤教授会において教育職員全体への報告・周知を図り、その後事務局に報告する手順となる（資料4(1)-10「学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証手続【文学部】」）。なお、以上の検証作業は年1回行うこととし、2014年3月14日に教育推進室会議を開催した（資料4(1)-11「教育推進室会議議事録」）。

【文学研究科】

文学研究科では、「大学院運営委員会」において検証を行うこととなっているが、グランドデザインの具体化に向けて大学院教育を抜本的に見直すため、2012年に「大学院グランドデザイン推進会議」を設置した。先にも述べたが、これは学監・副学長のもとに臨時的に設置した組織であり、ここで、2015年度からの新たな大学院の教育方針および教育課程の検討を行い、あわせて現行の学位授与の方針と教育課程の編成・実施方針も検証し、原案を作成した。作成した方針案は、大学運営会議と大学院運営委員会で検討し、大学運営会議で決定を見た。大学院グランドデザイン推進会議は2013年度で終了し、今後の検証作業は、従前どおり大学院運営委員会がその任を負う（資料4(1)-12「大谷大学大学院運営委員会規程」）。

検証・改善の手続は次のとおりである。すなわち、検証作業として各専攻の意見を聴取する。検証の結果、方針を改正する場合は①原案を大学院運営委員会で作成し、②大学運営会議で決定。③大学院委員会に報告。その後、事務局に報告する手順となる（資料4(1)-13「学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証手続【文学研究科】」）。なお、この検証は2014年度から年1回のペースで行うこととしている。

2、点検・評価

●基準4(1)の充足状況

本学の理念・目的を実現するために、教育目標を定め、それに基づき学位授与方針および教育課程の編成・実施方針を明示し、種々の手段により大学構成員（教職員および学生）に周知し、社会に公表している。以上により、本学はおおむね同基準を充足している。

①効果が上がっている事項

（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の改訂について）

2012年度に文学部、2013年度に文学研究科の学位授与方針および教育課程の編成・実施方針に再検討を加え、新たな学位授与方針、教育課程の編成・実施方針を策定した。より一層教育に裨益することをめざして、具体的で明示的な形での記述に改め、学生はもとより教職員にとっても理解しやすい簡易なものとなった。

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【大谷大学】

（「教育推進室」の設置について）

教育の一層の充実と更なる発展を目的として設置した教育推進室では、2013年度に新入生を対象として、英語に対する意識等を問うための「英語アンケート」を実施し、2014年度に学生のニーズに応じた英語教育の科目を開設するほか、リメディアル教育を行う「学習支援室（ラーニング・スクエア）」を立ち上げるなどの結果を出している（資料4(1)-14「英語アンケート」ご依頼・質問用紙・報告書、資料4(1)-15「学習支援室規程」）。

②改善すべき事項

（文学部の教育課程の編成・実施方針について）

2012年に文学部の教育課程の編成・実施方針を大幅に見直し、具体的で理解しやすいものに改訂したが、「共通基礎科目」「学科専門科目」「現代総合科目」「自己選択科目」の大きな4つの科目群のねらいについての説明が不十分であることが判明し、改善の必要が生じている。

（大学院運営委員会の規程改正について）

教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性の検証は、文学研究科においては大学院運営委員会で行っているが、そのことを規程に明記していない。

3、将来に向けた発展方策

①効果が上がっている事項

（学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の改訂について）

学位授与方針、教育課程の編成・実施方針が学生・教職員ともに理解しやすい記述となったことは、点検・評価活動にとって有意義な環境を整えたことを意味する。以後、各教員が授業について自ら内省的に点検していくことはもちろん、各学科においても、組織的にカリキュラムの点検・評価の機会を設けていく。

（「教育推進室」の設置について）

2014年度には、新入生を対象に、日本語教育の検討のために「日本語アンケート」を行った（資料4(1)-16「日本語アンケート」ご依頼・質問用紙・集計結果報告書）。卒業論文を学業の集大成と位置づけ、コミュニケーション能力の中でも「読み書き」に重点を置いている本学の今後の教育について、アンケート結果をもとに議論し、2015年度以降のカリキュラム改変を推進していく。

②改善すべき事項

（文学部の教育課程の編成・実施方針について）

文学部の教育課程の編成・実施方針については、教育推進室において4つの科目群のねらいを盛り込むよう文言を見直し、2014年度中に改訂する予定である。

（大学院運営委員会の規程改正について）

方針の適切性の検証を大学院運営委員会で行っていることについて、2014年度中に大学院委員会で規程改正を行う予定である。

4、根拠資料

資料4(1)-1『大谷大学要覧2014.4-2015.3』（既出（1-16））

資料4(1)-2『履修要項2014』

第4章 教育内容・方法・成果

(1) 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 【大谷大学】

資料 4(1)-3 本学 HP「教育研究を始めとする各種方針」(既出 (3-1))

<http://www.otani.ac.jp/annai/nab3mq000003cn7u.html>

資料 4(1)-4 「グランドデザイン【2012年度-2021年度】」(既出 (1-4))

資料 4(1)-5 「3つのポリシー再検討会 議題」

資料 4(1)-6 「大学院グランドデザイン推進会議案内」

資料 4(1)-7 『学生生活サポートブック 2014』

資料 4(1)-8 「大谷大学学士課程の教育方針」

資料 4(1)-9 「教育推進室規程」(既出 (3-4))

資料 4(1)-10 「学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証手続【文学部】」

資料 4(1)-11 「教育推進室会議議事録」

資料 4(1)-12 「大谷大学大学院運営委員会規程」(既出 (3-21))

資料 4(1)-13 「学位授与方針、教育課程の編成・実施方針の適切性の検証手続【文学研究科】」

資料 4(1)-14 「英語アンケート」 ご依頼・質問用紙・報告書

資料 4(1)-15 「学習支援室規程」

資料 4(1)-16 「日本語アンケート」 ご依頼・質問用紙・集計結果報告書